

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校
校長 山谷 安雄
令和4年度 第5号
令和4年9月8日

目的を持つことの難しさ

校長 山谷 安雄

長い夏休みが終わって、少しずついつもの学校生活が戻ってきています。未だかつてない早さで6月中に梅雨が明けましたが、気象庁が梅雨明けの検討をしたところ今年の梅雨明けを7月下旬に訂正をしたようです。どちらにしても、年々暑さが増している夏には変わりありません。

2学期は、3年生の修学旅行や文化発表会、合唱コンクールが学校全体で計画されています。できる限り通常のカンパを目標して計画しています。今の3年生にとって初めての合唱コンクールになりますが、新たな伝統を築くつもりで取り組ませていきたいと考えています。

さて、親の立場であると、子どもたちに少しでも目的をもって毎日を過ごしてもらいたいと考えますがゲームやスマホが身近にあり、これがなかなか難しいところです。中学生や高校生に、勉強をする目的や理由を聞いても答えられる人は多くいません。多くの生徒は、「親に言われるから。」「みんなが勉強するから。」「なんとなく。」というような答えが返ってくるのが想像できます。「将来こんなことをしたいから、今頑張っている。」こんな答えができる人は大変幸せです。多くの子どもたちは、将来の目標をさがすために高校や大学に行くと考えています。

ところで、私自身のことを振り返ると、なぜ、勉強をするようになったかというよりもいかに理科が好きになったかが大きなことでした。思い当たることは、子供の頃家の白黒テレビが壊れて、電気屋さんが家に来ました。今と違って故障したところをユニット交換をするのではなく、テレビの後ろを開けて、わけのわからない電気の部品をテスターを使って調べたり半田ごてを使って部品を交換したり、真空管を交換したりしていました。大変落ち着きがない私がジッと2時間3時間訳もわからず、ただ見ていました。その時は、将来は電気屋さんになるんだと思い、訳が分からないもの『未知のもの』に対する興味関心が高くなった気がします。そして、小学校低学年の時の成績は、どちらかというと下だったのが、理科だけが良くなってきました。その影響か他の教科も少しずつ良くなり、小学校を卒業するころには、勉強に自信が持てるようになりました。何が、人の一生を左右するかわからないということです。もし、電気屋さんが家に来なかったら、父親の仕事を継いで職人になっていたと思います。(職人にならなかったことは、多少後悔しています。)